

災害に負けない 水道

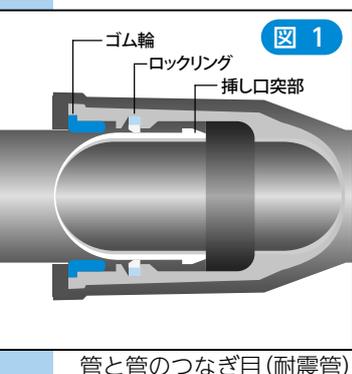
～南海トラフ地震に備えた取り組み～

関 市企業局水道企画課 ☎685・3330

災害に備える

水道管の更新と耐震化

本市の水道事業は昭和7年の創設以降、給水区域を市内のほぼ全域に広げ、水道管の整備更新を行ってきました。しかし、水道管の中には老朽化したものや耐震性能が低いものがあり、



管と管のつなぎ目(耐震管)



大谷配水池の緊急遮断弁

地震が起きた場合に管と管のつなぎ目が外れるなどして、水道水を供給できなくなる恐れがあります。そこで、市では老朽化した水道管の取り替えや新たに水道管を埋設する際に、耐震管(図1…つなぎ目が外れず強度が高い管。)に更新し、地震に強い水道

今後30年以内に70%程度の確率で発生すると予測されている南海トラフ地震などの災害に対して、災害発生時の迅速な水道復旧体制の構築と被害を最小限にとどめるため、市では水道施設の更新と耐震化を進めています。

また、災害が発生した場合に備えて、水道水を確保するためのさまざまな対策を行っています。今回は、これらの取り組みをご紹介します。

配水池の更新と耐震化

配水池は、家庭などへ送る水道水を一時貯めておく施設で、市内に18カ所あります。配水池には水量の調整や停電などの非常時に一定時間給水できる機能があります。

市では、災害時に安定した水道水を提供するため、老朽化した配水池を、耐震性能を有した施設に更新しています。現在、大麻町板東の平草配水池の更新を行っており、平成27年度末に完成する予定です。(写真右)



平草配水池築造事業の状況(造成工事完了)

緊急時に水を確保

緊急遮断弁

地震で水道管が破損すると、配水池の水が大量に流れ出てしまいます。こうした事故を防ぐため、大きな地震の揺れを感じた時点で自動で水道管を閉める「緊急遮断弁(写真上)」を配水池の出口の水道管に設置しています。現在、市内で緊急遮断弁を

緊急貯水槽

設置している配水池は1カ所ですが、平成27年度末に2カ所目が完成する予定です。

緊急貯水槽は水道管を太くした形状で、平常時には水道管の一部として水道水が流れていますが、緊急時には出入り口の弁を遮断することにより貯水槽の水が確保され、非常用の水源として使用できる構造となっています。市内ではうずしおふれあい公園(貯水量100立方メートル)と鳴門・大塚スポーツパーク(貯水量170立方メートル)に設置しています。

給水タンク車

給水タンク車は機動性を生かし、災害時などにさまざまな場所で給水活動を行います。また、水道工事で断水する場合などに、同車で水道水を配っています。市では1台(容量2立方メートル)を所有しています。



災害に備えて飲料水の備蓄を

地震などの災害が発生したときには、水道が使えず応急給水の体制が整うまでに時間がかかることが予想されます。災害時の備えとして家庭で水を備蓄しておきませんか。飲み水の備蓄の目安は「1人1日3ℓ、3日分で9ℓ」といわれています。

水道水の保存方法

- ①清潔な容器を水道水で十分に洗浄します。
- ②容器内部に空気が残らないよう水道水を満たし、確実にふたをします。
- ③直射日光が当たらず、風通しのよい場所で保存してください。保存期間は約3日間が目安です。

※保存期間内にふたを開けた場合は、その都度新しい水道水に入れ替えてください。



次回は本紙12月号で、現在工事を進めている浄水場取水施設工事の状況をご紹介します。